



ずっと広がる空、景色。
のびのびと子育てができる
ゆとりある住環境が魅力。

吉森さん一家



ここに来る前も今も
どちらも同じ1日なのに
時の流れ方が違うんです。

堀江美佳さん

主人である裕基さんの仕事をきっかけに、石川県へUターンした吉森さん一家。それまでは京都に住んでいましたが、長女の湊ちゃんと次女の旭ちゃんの子育てをしながら、遊ぶ所が無い不自由さを感じていたそうです。「都会はお店の数が豊富なぶん、買い物に出かける時間が多かったんです。子供達にとっては楽しくない時間だったんだろうなって」と、木場潟の公園で遊ぶ3人の娘達を見守る千洋さん。石川に来て以来、週末には木場潟公園に訪れ、家族みんなで過ごす時が多くなったと話してくれました。「木場潟は1周が

6.4kmなので、1週間のリフレッシュに最適な距離。末娘の直がもう少し大きくなって、いつか家族みんなで散歩ができると嬉しいですね」と微笑む裕基さん。

Uターンしてきて人とのつながりがグンと増えたと千洋さんは言います。「この地域の人は本当に人が良くて。人から人につながり、世界を広げてもらいました。主人も町内会の付き合いは心強いと話しています」。それはお金では買えない人の恵みと助け合い。夫婦共働きながらも地域のコミュニティを楽しみ、子供達と暮らす生活に笑顔があふれています。

京都から加賀へ3年前に移住してきた堀江さんは、雁皮紙を作り、青写真と呼ばれる技法で表現する現代アーティスト。家の裏山で自ら採ってきた雁皮（がんび）をコトコト煮込み、木槌で叩き、井戸や小川で汲んだ水で紙をすく。使っているすき枠は、数年前にこの近くの地区会館に眠っていたもので地域の人が思い出し、善意で譲っていただいたそう。「和紙作りには原料の雁皮はもちろん、水の質が大事。石川は環境がいいところで魅力的ですし、何より親身に相談に乗ってくれて、異質な存在の私をすんなり受け入れてくれた

地域の皆さんのやさしさが“ここに住みたい”という思いを強く後押ししてくれました」。

以前は街ナカで慌ただしく暮らす日々が続き、天気や季節を考える余裕はなかったと振り返ります。「流れている時間は同じはずなのに、何をすることも広い目線で見ることができません。降雪も予報と肌で自然を感じることで心構えができるから、慌てない。心の余裕が生まれました」と堀江さん。芸術活動も地域のひととのふれあひも楽しみ、縁を大切に日々を過ごしています。

理想の一軒に出会うまで



根気よく探し続けて
めぐりあえた一軒家

家族5人が住める賃貸住宅がなかなか見つかりませんでした。根気よく探し続けた吉森さんご夫妻。「紹介待ちをしていたところ偶然今の借家を紹介され、間取りと立地、賃貸料に申し分無く、即決でした」。

子育て世帯のメリット



無料で子供が遊べる
場所が多くて日々充実！

都会では何をすることも入場料や駐車代がかかるもの。石川は無料で利用できる公園や公共施設が多いため、子供も親ものびのびと触れ合えて、笑顔がいっぱい。子育ての環境が抜群にいいんです！

自然と広がった人との輪



雁皮紙と写真を通して
広がりつながる縁。

創作活動を通して地元の人とのコミュニケーションが広がりました。皆さんとても朗らかで、親身になって相談に乗ってくれたり、人を紹介してくれたりするの、わずか3年の間で多くの人とのつながりが持てました。

暮らす上での必需品



ここで暮らすなら
やっぱり車は必須！

物件を下見に訪れた時、一番近くのお店まで約6km近く離れていて「これは車が必要だな」と感じ、引越前に急いで免許を取得しました。車があるとどこにでも行けるから、オフの時間も充実しています。